みんなに使われる公園を実現するために！
公園市民協議会をつくってみた

公園をつくるときには、「みんなに使われる公園をつくりたい！」と考えて、地域説明会や住民アンケートをしてきましたが、そうやってつくっても、あまり使われない公園もあります。昨年度、ガイドブック「公園を使いこなそう」の作成過程では、市民ももっと公園を使いたいと思っていることがわかりました。市民と相談しながら整備してきたはずなのに、なぜ閑散とした公園はなくならないのか？

浜松市公園課は、行政からの発信だけではなく、市民と一緒に話し合い、創る場が必要だと考え、「公園に市民の意見を取り入れる方法」を模索しています。そこで、まずは模擬公園協議会（公園市民協議会）をつくってみました。公園の制約やあり方の難しさ、まだまだいろんなことにチャレンジできるポテンシャル、そんな諸々を全部テーブルに並べて、「使われる公園」の創り方を考えました。同時に、公園課では、「市民の意見を公園に反映させ、使われる公園をつくる」ために、公園整備において留意すべき視点とステップをまとめた「（仮称）浜松市公園整備における市民協働推進・民間活力導入促進の基本方針」（通称：みんみんプラン）を作成しています。行政職員に意見の収集のステップをしっかり踏ませるように、市民が「ここで意見を伝えられる」と認識してもらえるように、今後公開予定です。（公園課　永田）

公園市民協議会で話し合ったこと

第１回
　公園協議会って何？
第２回
　公園に市民の声を取り入れたい
第３回
　みんみんプランについて
　話し合った

◎公園市民協議会の委員について

令和 3 年度の市民委員は、次の2点を考えて、当 NPO 法人がこれまで培ってきた市民とのネットワークから、直接声をかけさせていただきました。

●多様な市民の気持ちを代弁できる立場の方
●年齢やジェンダーの偏りができるだけ少なくなるように配慮

子ども（育成、子育て支援、遊び）、地域づくり（防災、コミュニティづくり）、環境、若者、企業支援、ユニバーサルデザイン、観光、多文化共生、造園　などの分野の方１３人にお願いしました。年齢構成は２０～３０代４人、４０～５０代５人、６０代４人です。またファシリテーターは、鈴木まり子氏にお願いしました。（認定 NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター木村智子）

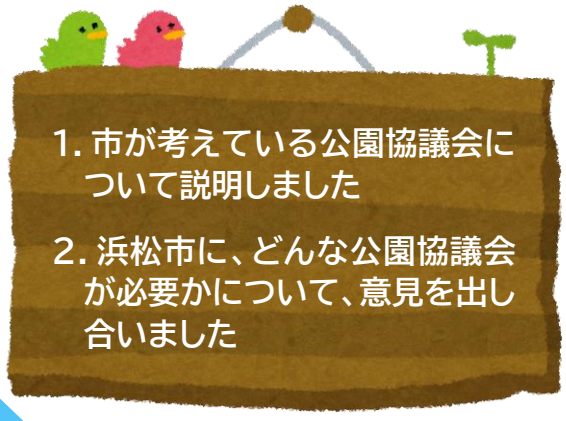
市民委員のみなさん
あいうえお順（敬称略）

大野木龍太郎、大村美智代
小沢めぐみ、小畑直也
河合洋子、川端務夢
杉山真之介、谷川憲司
菱沼妙子、松井玲子
宮城ユキミ、矢野貴裕
井ノ上美津恵（事務局と兼任）

第１回
R3.8.20

公園協議会って何？
～意味のある公園協議会を実現するために～

リモート開催



1. 市が考えている公園協議会について説明

はじめに、公園協議会について、公園課が考えているイメージについて説明。公園協議会には色々な形があるが、今、目指したいのは「行政と市民が話し合う場」であること、右下図のような内容について「浜松市全体の公園について俯瞰して話し合う場」にしたいと説明がありました。

2.「どんな協議会が必要か」について意見交換

公園課の説明を聞いて、わからないことなどについてやりとりした後、４～５人のグループに分かれて、以下のテーマを投げかけてディスカッションしました。

①「協議会あるある」って何？

②意味のある協議会を実現するためには、どんなもの・コト（進め方や話し合う内容など）があるといいだろうか？

話し合いの中で協議会についての理解が深まっていきました。

浜松市の公園の力を
100%発揮できるような絵を描きたい

・・・課題はたくさんある

- 使われる公園でなければいけない
- 今、必要な施設や機能は？
- 維持管理は？（直接管理、委託管理、愛護会）
- 収益性を備えられるか？
- 民間施設を誘致するか？
- UDやソーシャルインクルージョンへの対応

協議会の構成メンバーやあり方なども手探り
是非、一緒に考えていただきたい

公園課の示したスライドの１枚

3.「こんな協議会がいいな！」というみなさんの意見

その結果出て来た協議会イメージをまとめてみました！

協議会のビジョン

- 浜松の公園として、協議会として、それぞれ、これから何を目指すのか明確にしよう
- 声が大きい人たちだけでなく意見を言えない子どもたちやマイノリティも大切にしよう
- 公園づくりはまちづくりの一環という位置づけをしよう

協議会の形

- メンバーは興味関心や年齢、ジェンダーのバランスを意識しよう
- 内容や決まったことをしっかり広報しよう
- 透明性があるのが大切
- どんな決定権を持つのか決めよう
- 協議会の種類ややり方は必要に応じて色々あっていいのでは？

メンバーが日ごろから意見をやりとりできる関係性があって、お互いに勉強したりしながら丁寧に対話をして決めていけるような雰囲気がある協議会がいいな！

協議会すべき内容

- 苦情から大切なものを守るロジックが必要！
- 浜松の公園全体の見直しが必要で、再配置、再整備それぞれの公園の特徴づけなどもした方がいい
- それぞれの公園のルールづくり
- 公園に市民が関われる仕組みづくり
- 合意形成を進めるための判断軸づくりも必要だね！

第２回 R3.10.15

公園に市民の声を取り入れたい

～浜松城公園鹿谷地区再整備を題材にして話し合ってみた～

1. 公園整備に、市民の意見を取り入れる方法について意見交換しました

2. 意見を集める方法やタイミングへの意見が集まりました

1. 鹿谷地区再整備での市民意見の収集方法を説明

「公園整備にどうやって市民の意見を取り入れたらよいか」について考えるため、8月に行った浜松城公園鹿谷地区再整備計画での市民意見の収集方法を題材にし、まずは委員に計画の経緯や計画内容について理解してもらうことからはじめました。

鹿谷地区再整備計画で市民意見を取り入れてきた経緯

●H24・25：浜松城公園長期整備構想において
市民フォーラム、ワークショップを経てパブリックコメントを実施。鹿谷地区についても、基本的な整備方針や、「移ろう四季の体感ゾーン」というテーマが決定した。

●R3：鹿谷地区の実施設計を行うにあたって市民意見の収集
現地を案内しながら、どんな公園（エリア）にしたいかについてアンケートを実施した。

浜松城公園のゾーニング図

2. やっぱり難しい市民意見の反映

今回のアンケート結果には「役所が決めた整備」という意見もあり、委員とのやりとりからも、これまで市民意見を収集しながら計画を決めてきたにも関わらず、その経緯が「市民にはほとんど知られていなかった」ということが改めてわかりました。公園課職員にとっては、長期にわたり継続する公園事業においての周知の難しさと大切さについて、考えさせられる回となりました。

委員からは、市民に計画への納得感を持ってもらうためには、「意見を聞く方法や範囲」「意見を集めてから整備までの期間がスムーズであること」「意見が反映されたことがわかるように市民にしっかり周知する」などについて指摘があり、これらが揃うことが大切ということがわかってきました。

3.「こうすればもっと意見が集まる！」というアイディアがたくさん出ました！

委員の方たちからは、こんな意見が出ました。

☆周知期間や意見応募期間を長くした方が良い
・構想段階から市民とのコミュニケーションの機会を増やして！

☆アンケートや説明会の周知方法、開催方法を工夫して！
・市の広報だけでは見る人が偏ってしまう
・来園者や近くの施設など実際に使っている人に聞けばいいかも

見学説明会は良かった！

☆アンケートの取り方にも工夫を！
・公園施設や周辺店舗のポイント付与があるといいかも
・アンケートを取る人も大事。若い世代はやっぱり同年代が答えやすい
・SNS 等も利用していくべき

まずは答えてもらえるようにすべし！

☆市民の意見も見える化したほうが良い。
・構想や設計に市民の意見を反映させた跡が残ると関心が高まるのでは？

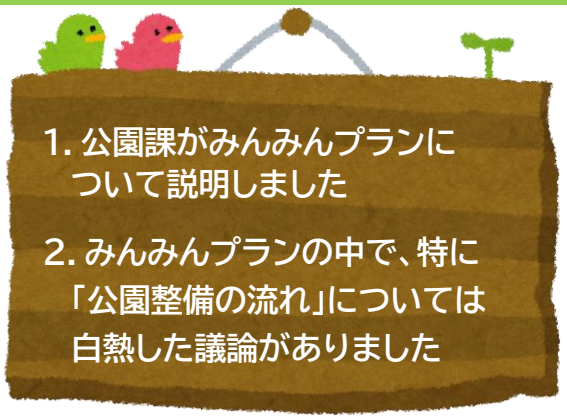
アンケートの設問の作り方についても多くの意見が出ました

・欲しいモノ」ではなく「何をしたいか」を聞けば、公園を「使うこと」につながる。
・「使うとき」にどんなルールが必要か、ソフト面の整備も重要になってくる。
・「現在」ではなく、20～30 年後の「未来」を見据えて、このまちにどんな公園が必要かというアイディアを集めていこう。でないと、すぐに古びた公園になってしまう。

第3回 R3.11.29

みんみんプランについて話し合った

公園整備における市民協働推進・民間活力導入促進の基本方針



1. 公園課から「みんみんプラン」を説明

はじめに、公園課から「(仮称)浜松市公園整備における市民協働推進・民間活力導入促進の基本方針」(通称・以下、みんみんプラン、1ページ参照)の説明がありました。第1回・第2回をとおして、委員からもらった意見を反映した部分が紹介され、質疑応答も行いました。

2.「みんみんプラン」についてディスカッション

4～5人のグループに分かれてディスカッションし、全体で発表しました。特に議論が白熱したのは、公園整備の流れを示したフロー図と公園協議会の位置づけについてでした。

防災とか子育てとか多機能な面が公園にはあるので、公園に関わる行政機関は公園課だけではないはず。いろんな課が協力しないといけないと思う。

じゃあ、公園にかかわる人・機関をつなぐハブの存在に協議会を位置付けたらどうだろう？

現在、市内の公園のあり方に市民意見が届かないと感じています。地域意見を自治会などの高齢者からだけ聞くのではなく、世代間のバランスを取るという意見を取り入れるべきですよ。

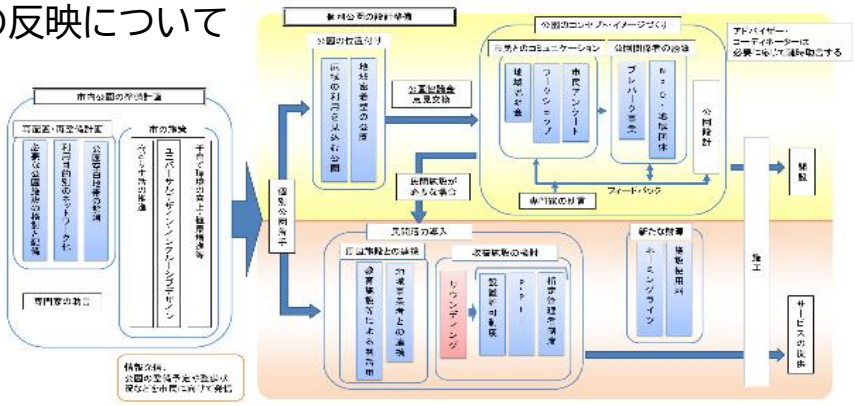
こんな意見が次々と委員からあげられました。公園課職員は、そのひとつひとつに、現在できていること、できないこと、その「理由」を説明しました。それらを共有し、さらに議論を発展させていきました。

3.「もっとこうしたらいい！」というみなさんの意見

みんみんプラン

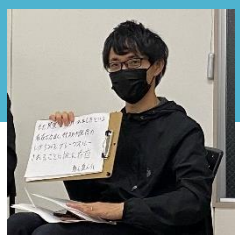
- 目指すべき公園を実現するための手法が書かれていないので「いつ、どこで、だれが、どのように」を具体的にしよう！
- 「公園協議会」の役割を文章で明記しよう！
- 公園がもつ「公益性」について書いて、公園を使って公益に生かすという文言を入れるといい！
- 公園のコンセプトを決める段階を加えた方がいい！
- 施工と開設の間にプレパーク事業実施を加えるのはどう？
- 20～30年後を見据えて若い人たちに向かって発信するということも入れよう！

●意見の反映について



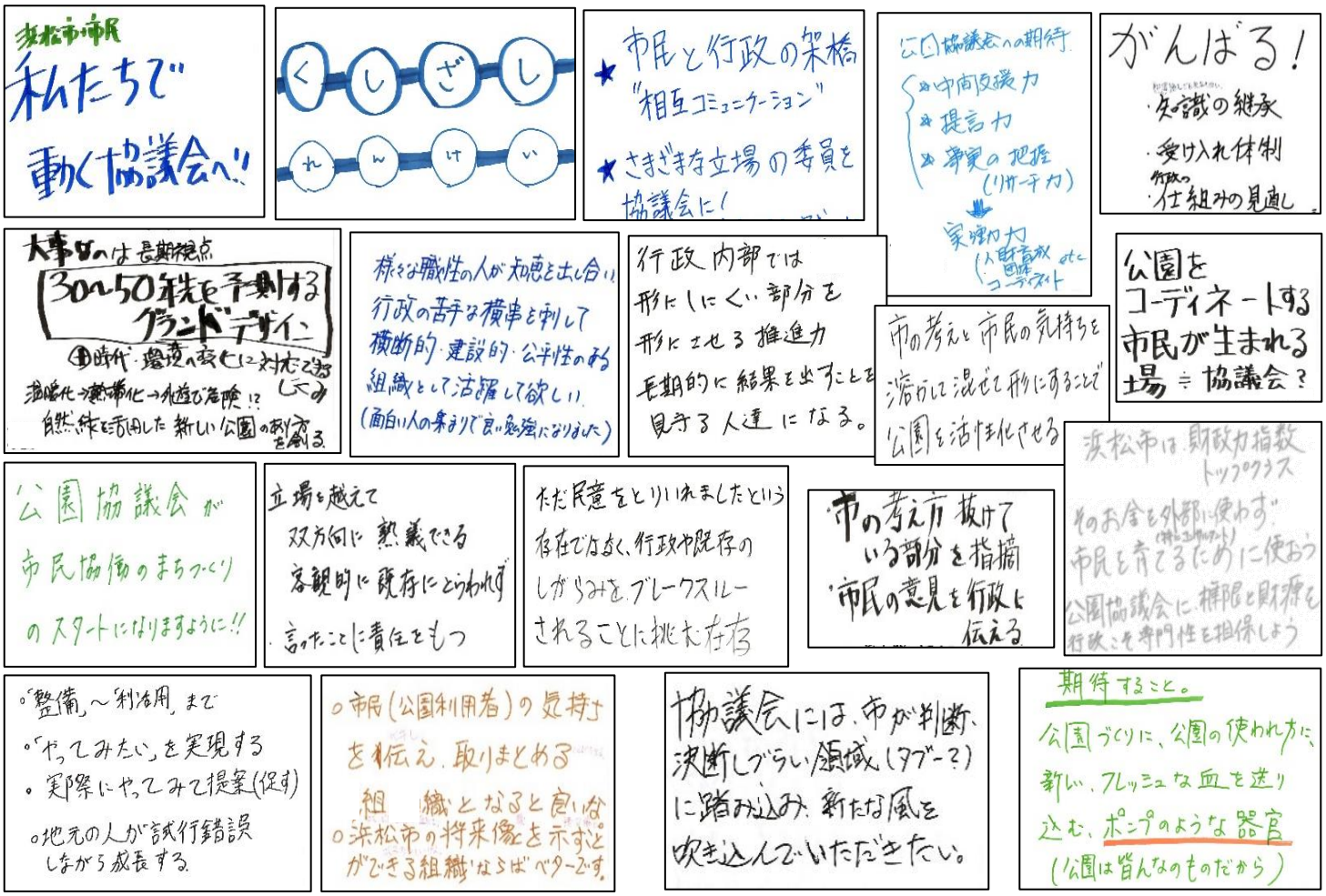
協議会で出た意見を、公園整備の流れを示したフロー図に反映させました。
「公園協議会」の文言が入ったり、フロー図の流れが「上→下」から「右から左」に変更したりしています。
みんみんプランについては最終ページでご案内しています。

全3回の終わりに…



●協議会に期待することは…？

第3回の終わりに、これまでの話し合いを振り返りながら「協議会に期待すること」について、全員が発表しました。色々な立場の人で構成され、多様な人たちを横に繋いで、市民と行政の架け橋になり、浜松のまちや公園の未来のために動く存在になることを期待していると感じました。ここでは、市民も行政職員も同じ想いを共有できたと感じました。下に、全部載せます！



●公園課長からのあいさつ

最後に、中村公園課長から「これからも引き続き市民とのコミュニケーションを深めたり、対話を重ねたりすることが大切だと思う。今後は実際にどこかの公園での挑戦をしたりして成果を出しながら、一緒に育てていきたい。委員の方には、また相談に乗っていただきたいと考えている。」と、挨拶があり、委員からの拍手が出て、前向きな良い雰囲気で全3回を終えることができました。

●さらにもう1回！～リモートでスピンオフおしゃべり会を行うことに～

「テーマが決められていた3回だけでは、言いたいことが伝えきれない」という感想もあり、気楽に意見を言い合うだけの会をやってみようということになり、12月15日（水）19時から、都合のつく委員と職員たちで、リモート環境でざっくばらんな意見を言い合う会を設けることになりました。

スピンオフ！リモートおしゃべり会　R3.12.15

●ざっくばらんな意見交換の場

全3回の模擬協議会では、テーマが明確に決まっていて、横道にそれたりできなかったため、これまでのやりとりを振り返りながら、自由におしゃべりをしました。勉強会、事例づくり、未来に向けて、若者、多様な主体との連携・協働などがキーワードになりました。

小さくてもいいので、上手くいったという事例を作り、見せて積み上げていきたい。それを基に大きな取り組みにも繋がっていくと思う。

協議会は、行政寄りでなく、公平な独立した議論ができる場であるべきなので、市が開催する形より、必要経費を市からの負担金で賄うといった形のものがよいと思う。

公園協議会がどうあるべきかの議論をきちんと着地させよう。行政も頑張るという言葉が聞けてよかった。

市民の意見に対応することは大切だが、中には一方的に責めるものもあり、職員が疲弊していると聞く。また1人の市民の苦情で、子どもの遊びが制限されるようなことはおかしい。協議会は、多くの市民がこうありたいと考えている公園のあり方などを明確にして、職員が反論していい根拠、あるいは条例や仕組みの提案などを示してあげることも大切。

最近は公園でも「収益をあげる」ことが話題にあがるが、一番大事なのは「公益性」。公益の基盤上に色々なものがある。

若い人はモチベーションを高めれば自分たちで考える。若い世代で話し合いができる場（SNS）があるとよい。

プレイパークのようなことを民有地でやったが、60人くらいは集まった。キャンプ、スケボー、ツリークライミングなどは公園でやれば人は寄ってくる。やれる仕組みが必要。

「民間活力導入」という言葉には、行政ができないこと（苦情対応、高いサービス）を民間に丸投げするという側面もあり、それが目的になっているようにも見える。それでは本来の協働にはならない。

浜松市内に限らず、活用すべき人材に「その技術がほしい」と明確にアプローチできるといい。そして企業を本気にさせて参画させたい。

ある県の「未来を考える会」では、市民だけでなく企業や専門家、議員も出席しており、そこでの話し合いは最終的に提言書として県に提出した。こういうゴール設定もいい。

公園×モビリティ、公園×環境、公園×防災などテーマを決めて勉強会をやろう。現在、自身が参加している研究会では市内の企業のエンジニアなども参加しており、色んな人が公園に関心がある。そういう人との交流も見込める。

市委託の乳幼児の親子の居場所を運営しているが、公園を活用できない。隣接していない公園は公道に出るため危険という扱いになってしまう。外遊びの大切さや楽しさを体験するためにも公園を活用できないか？

2050年の公園を目指そう。時間軸が大事。将来の公園を今、考えて設計すべき。例えば、温暖化が進めば広場で遊ぶなんてできなくなっているかもしれない。そういうことも考えて対応した公園を設計していくことが必要。

●最後に　編集担当より

今回は、市民と公園課職員が、時間をかけてじっくりと公園について話し合える貴重な機会となりました。立場に関係なく、全員の知識や経験を持ち寄って、議論することが今後も必要だと感じられる経験でした。
「みんなに使われる公園」にしていくための取り組みは、これで終わりではありません。来年以降も続きます。
発信も続けます。これからもよろしくお願いいたします。

（仮称）浜松市公園整備における市民協働推進・民間活力導入促進の基本方針（みんみんプラン）

本模擬協議会で、「市民意見をどのように集めるか」を議論した結果を反映させた、公園整備の留意すべき視点と市民協働や民間活力導入の基本的な方針です。もうすぐ公開予定です。

はままつ公園活用ガイドブック

令和2年度に3回にわたって開催した、公園行政職員と共に考えるワークショップ「公園を使いこなそう！」の成果として、作成しました。

企画編集：木村（認定 NPO 法人浜松 NPO ネットワークセンター）、永田・梅林（浜松市公園課）
発行者：2021年度　公園市民協議会　発行日：2022年 6 月